

書名：正しいパンツの  
たたみ方

著者：南野忠晴

出版社：岩波書店

出版年月：2011年2月

総ページ数：224ページ

ISBN：9784005006748



推薦者

坂本有芳

鳴門教育大学大学院准教授

生活・健康系コース（家庭）

出だしから別の図書の紹介で恐縮だが、『学校では教えてくれない大切なこと』と題する小学生向けシリーズが旺文社から出されている。取り上げられたテーマは、「整理整頓」「友だち関係（自分と仲良く／気持ちの伝え方）」「時間の使い方」「お金のこと」・・・学校の家庭科で習うことになったのは比較的最近だからなのか、「大切なこと」にもかかわらず「学校では教えてくれない」と、多くの人が思っているようだ。

『正しいパンツのたたみ方』の著者・南野忠晴は、もともとは大阪府立高校で英語科教員を務めていた人物である。13年間、英語科教員として高校生に接しているうちに、しだいに家庭科教育の重要性に目覚めてゆく。そして、ついに教員採用試験を受けなおして家庭科専任教員になってしまったのだ。自身の中学・高校時代、家庭科授業を受けなかったにも関わらず。

物、お金、時間といった生活資源をいかに繰り返し回すかは、日々、自分の暮らしを整える上で欠かせないスキルでありながら、自己流を本人の試行錯誤で身につけるとされてきた。著者はいう。「(家事・育児の)ひととおりのことができるようになるのには相当の時間がかかりました。やってみて初めて、段取りよくやるには、最低限の知識と技術が必要であるとわかりました。(中略)あらかじめ知識としてあれこれ知っていればもっと良かったのにと、思うこともたくさんありました」(はじめに)。

著者が転身にいたるまで、高校生のどのような姿を目にしてきたのか。自立にはどのような柱があり、それぞれに必要な知識や技術とは何だろうか。現在の若者にどのような内容が必要と感じ、家庭科の授業で重点を置いているのか。自身の経験と専門知識に裏打ちされた「学校では教えてくれない大切なこと」のアドバイスもふんだんに盛り込まれている。是非、本書を手にとり、一読してみたい。

